

海洋観測艦(AGS)

本事業は、我が国周辺海域における海洋環境データの収集態勢を維持するために、昭和58年度海洋観測艦「わかさ」の代替更新として、海洋観測艦1隻を取得するものである。

現状・課題

我が国を取り巻く安全保障環境において、潜水艦の脅威に備えるための能力向上は喫緊の課題であり、昭和58年度、平成8年度及び平成19年度計画において海洋観測艦(AGS)を建造、3艦態勢をもって広範な周辺海域の水温構造、海底地形等の対潜戦に必要な海洋環境データの収集を行っている。一方、昭和58年度海洋観測艦は、令和7年度末に除籍予定であり、時期に併せた海洋観測艦の更新が必要である。さらに、敷設艦「むろと」及び現有の海洋観測艦では水中機器の敷設・揚収の所要を満足しておらず、機能の強化及び向上が必要である。

インプット (資源)

アクティビティ (活動)

アウトプット (活動目標)

アウトカム(成果目標)

インパクト (社会的な影響)

【予算】

令和4年度要求
海洋観測艦
(AGS)

R4概算要求額
1. 87億円
(歳出ベース)

282億円
(契約ベース)

【建造等】

海洋観測機能の向上及び強化

- ・艦上における海洋環境データ処理能力の向上
- ・水中機器の敷設・揚収機能の強化

省スペース・省人力化

- ・作業及び操作性の安全性を確保しつつ、効率化を追及し省人力化を推進

建造費の抑制とLCCの低減

- ・官給品及び民生品の積極活用等により建造費及びLCCの低減

【取得】

海洋観測艦
(AGS)の取得



【海洋観測機能の向上】

令和4年度に要求し、令和7年度に取得することで、海洋観測艦3隻体制による海洋環境データの収集能力が向上

【海洋観測用ケーブル修復機能の確保】

現有の海洋観測艦及び敷設艦「むろと」に加え、水中機器の敷設・揚収機能を強化し、併せて海洋環境データの収集能力が向上

初期アウトカム

中期・長期アウトカム

【水中領域における優位性の確保】

我が国周辺海域における海洋環境データの収集、蓄積及び分析を継続的に実施することにより、周辺海域の水温構造、海底地形等の把握が可能となり、水中領域における優位性の確保に寄与

【政策目標】

我が国自身の防衛体制の強化(領域横断作戦に必要な能力の強化における優先事項)

【施策目標】

従来の領域における能力の強化

常続監視や対潜戦、対機雷戦等の各種作戦の効果的な遂行により、周辺海域を防衛し、海上交通の安全を確保することが可能

<整備計画案>

年度	令和4年	5	6	7
整備内容		海洋観測艦(AGS)の取得		
		海洋観測艦(AGS)用搭載武器等の取得		

総合評価

本事業により、広範な我が国周辺海域における常続的な海洋情報の収集態勢の維持が可能となる。海洋環境データの把握による潜水艦、護衛艦、対潜哨戒機が行う水中目標の搜索能力の向上は、海上交通の安全の確保に資することから、国民の生命と財産を守るという社会的ニーズを的確に反映した必要な事業である。また、政策体系上の位置付けとも一致し、かつ、必要性・効率性・有効性の観点からも妥当と評価できることから、令和4年度からの着手が適当であると判断する。